SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994-2026

ゆかり通信
VOL.336
令和８年１月

北海道千歳市清水町1-14　鶴寶山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ http://sensho-ji.net/ フェイスブック @Senshoji

2026年千正寺カレンダー　１月の言葉

「大悲心」とは「仏様のお心」です。阿弥陀仏は、「全ての命あるものを、わが子のように思っておられる」仏様です。
自分の子供を、出来が悪いからといって、見捨てたりはしませんよね。転んでも、失敗しても、「大丈夫かい？痛かったね」と、悲しみに共感し、抱きとめる心。それが、大悲心です。

ニュースで悲惨な事件を起こした犯人を見て、「あんな極悪人でも、阿弥陀様は救うのかな？」という疑問が起こって来ますが、その答えは「Yes」なんです。なぜなら阿弥陀様は「良い事をしたから救う」「悪い事をしたら救わない」という仏様ではないからなんです。

私たちは、他人の罪はよく見えますが、自分の罪は、なかなか見えません。親鸞聖人は、「我が身を思えば、善きこと一つもなし」と、おっしゃいます。阿弥陀さまが救おうとされたのは、「自分は正しいと思って、人を裁く人」ではなく、「どうにもならない自分の愚かさに泣く人々＝凡夫」なのです。
「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」とは、「善人面して人を裁く人でも救われるのですから、自らの罪を自覚して、その愚かさに泣く悪人を、阿弥陀様は決して見捨てない」という意味なのです。しかしこれは「極悪人でもOK」という軽い話ではありません。「人を裁く資格が、自分はあるだろうか？」という、深い自己反省の言葉なんです。
では、「極悪人は、反省しなくても救われるのか？」というと？実は、ここが一番大事なポイントなんです。

阿弥陀さまの大悲心は、「罪を犯してもいいよ」と罪を肯定するのではありません。罪を犯した人のその奥にある、「弱さ、愚かさ、どうしようもなさ」まで含めて、「見捨てることは出来ない」というお慈悲の心なんです。ですから、「阿弥陀さまの救い」とは、「罪が無かったことになる」とか、「罰を受けなくてよい」とか、「何をしても許される」という様な意味では、決してありません。　むしろ、「自分の罪の深さに、はじめて向き合わされる」。それが、「阿弥陀さまの光に照らされる」ということなんですね。親鸞聖人は、自分の心を見つめて、「地獄以外には、行き場のない身」とまで言われました。そんな私を阿弥陀様は決して見捨てません。それが、阿弥陀さまの大悲心です。

阿弥陀さまは極悪人を救ってくださいます。阿弥陀様が大悲心で救おうとされている悪人とは、自分を棚に上げて、他人の罪をあげつらう人はありません。その悪人とは、自分の愚かさにも気づかず、善人顔して生きている、
この私のことだったんですね。　　**（本文：桜庭尚吾法務員）**